

2015（平成27）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

問一

物語の完結すべき分量は、話の長短よりも分量に相応した文章の性質である調子に由来するので、長い物語を短くはできず、短編は、短さが正しい分量であると考えられるから。

問二

短編は、具体的な物の形や印象であるイメージのみを読者に手早く定着させる必要があるが、長編は、読者への注意喚起や説明・注釈という思考まで記す余裕があるという相違。

問三

絵画における写生は、眼前の対象を即座にありのまま描こうとすることであり、文章において対象のイメージを十分な時間をかけて作者が回想し、心に浮かぶその記憶を書くことは、一見似ていても実質は異なっているから。

問四

『にんじん』の巻頭に配した『めんどり』は、要領のよい人物紹介を兼ねており、各人物に関しても一挙に分かり易く示され、しかもそれは、ルナールが最も得意な描写法と心得ていたであろう直接的、具体的、即効的表現である会話によるから。

問五（文系のみ）

イメージによる描写を得意とする作家が、対象のイメージを、記憶を介して取捨選択し、十分時間をかけて回想する。そして、そのイメージを、語るに相応しい調子を備えた、会話を主とする直接的・具体的・即効的な描写によって、読者に手早く印象づける完結した文章とすることで生み出される。

*理系第一問と共通。ただし、問五は文系のみ。